

抗アミロイドβ抗体 Q&A

Q. 抗アミロイドβ抗体にはどのような効果がありますか？

レカネマブ▶18か月間の投与で、認知機能の低下を27%抑制することが示されました。18か月投与することによって、進行を5.3か月遅らせたことを意味します。

ドナネマブ▶18か月間の投与で、認知機能の低下を29%抑制することが示されました。18か月投与することによって、進行を5.4か月遅らせたことを意味します。

抗アミロイドβ抗体は、軽い症状の期間を引き延ばす薬、と考えることができます。

Q. 副作用が心配です。詳しく教えてください。

抗アミロイドβ抗体の、最も注意が必要な副作用は、脳の微小出血と脳のむくみです。このため、抗アミロイドβ抗体による治療を始める前と、治療を開始した後に、繰り返しMRI検査を行う必要があります。

脳の微小出血や脳のむくみといった副作用の頻度は、レカネマブよりも、ドナネマブの方が高いことが知られています

Q. 通院頻度はどのくらいですか？

レカネマブ▶2週間に1回、原則18か月間の点滴が必要です。

ドナネマブ▶4週間に1回の点滴が必要です。通院期間は、①12か月目に検査を行い、アミロイドβが除去されたことが確認できれば投与完了、または、②12か月目にアミロイドβの除去が確認されない場合、原則最長18か月です。

いずれの薬も、点滴の他に、合間にMRI検査のための通院も必要です。



Q. どこに相談したらいいの？

治療については、まずはかかりつけ医、または認知症サポート医、お住まいの区市町村の認知症疾患医療センターにご相談ください。

※お住まいの地域の認知症サポート医、認知症疾患医療センターは、東京都の認知症ポータルサイト「とうきょう認知症ナビ」で確認できます。

「認知症サポート医」

「認知症疾患医療センター」



認知症や、認知症の新しい薬について、さらに詳しい情報をWebサイトに掲載しています！

認知症支援推進センター

検索



スマートフォン用QRコード⇒

<https://dementia-support.jp>

編集・発行 東京都福祉局高齢者施策推進部在宅支援課
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

東京都健康長寿医療センター認知症支援推進センター
東京都板橋区栄町35-2

監修 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター
脳神経内科 井原涼子

治療の選択肢が増えます！

アルツハイマー型
認知症の
新しい薬
ができました。



認知症の原因になる病気

認知症の現れ方は、原因になっている病気(認知症疾患)によって異なります。認知症の原因になる病気として、もっとも多いのがアルツハイマー病で、アルツハイマー病が原因になっている認知症をアルツハイマー型認知症と言います。

認知症の原因になる病気があって認知機能障害が生じ、認知機能障害が原因になって生活上の困りごとが生じて、人の助けが必要になった状態を「認知症」と言います。

また、認知機能障害があっても、生活上の困りごとが生じていない状態を「軽度認知障害:MCI」と言います。

アルツハイマー型認知症でみられる認知機能障害



認知症にはやく気づくことには、さまざまなメリットがあります

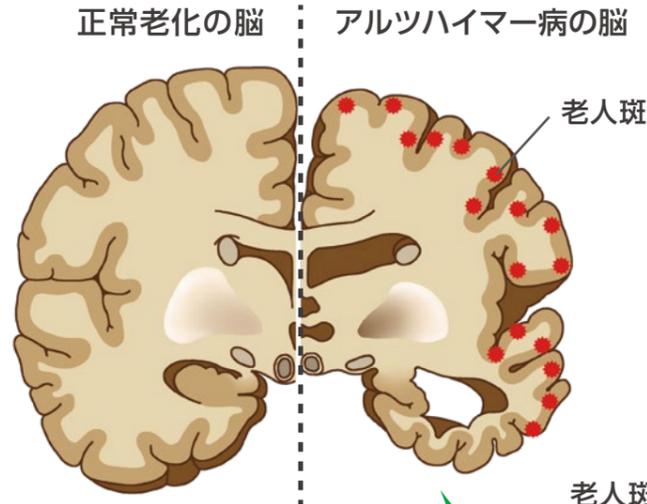


- ・治療を始めることができ、進行をゆるやかにすることができる場合がある
- ・生活の困りごとへの対処法を一緒に考える人に出会える
- ・これから先のことに備えられる
- ・理解して支えてくれる人を増やせる

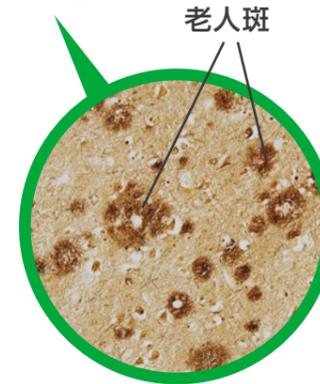
認知症は脳の病気

アルツハイマー病で見られる脳の変化

[脳の比較]



アルツハイマー病の脳を顕微鏡で見ると、「老人斑」が見えます。これが、アルツハイマー病の脳の最大の特徴です。「老人斑」は、アミロイドβ(ベータ)と呼ばれるたんぱく質が固まってできたものです。



アミロイドβは正常な脳でもつくられていて、つくられるスピードと分解されるスピードのバランスが保たれています。

ところがこのバランスが崩れると、アミロイドβの量が過剰になり、神経細胞の外で徐々に大きなかたまりになっていきます。

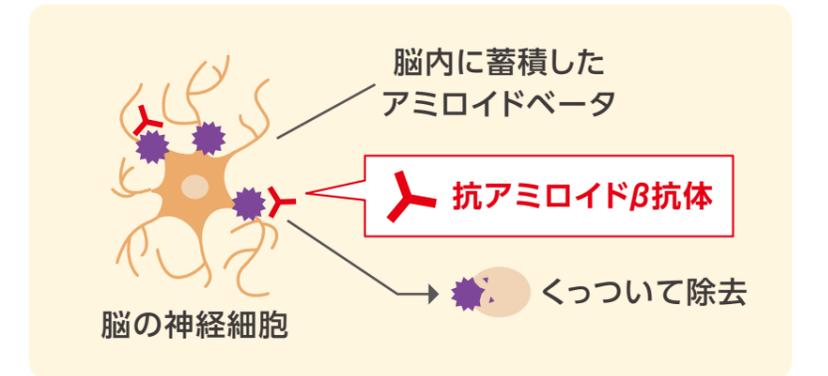
アミロイドβのかたまりは神経細胞の働きを鈍らせます。やがて神経細胞が死に、神経細胞の数が減ってくると、認知機能障害が現れます。



抗アミロイドβ抗体(レカネマブ・ドナネマブ)ってどんな薬?

抗アミロイドβ抗体の作用

従来の認知症治療薬は、神経細胞の間の伝達を調整することによって、今ある症状を和らげる薬でした。これに対して抗アミロイドβ抗体は、アルツハイマー病の原因になっている物質(アミロイドβ)を取り除き、認知機能障害の進行を抑制することが期待されます。



抗アミロイドβ抗体による治療の対象になる方

抗アミロイドβ抗体による治療の対象になるのは、「アルツハイマー病による軽度認知障害」と「軽度アルツハイマー型認知症」と診断された方で、検査等によって、ガイドラインに定められた基準を満たすことが確認された方です。

検査

抗アミロイドβ抗体による治療の対象になるかどうかを判定するために、以下の検査が必要です。

- ①心理検査、②認知症の重症度の判断、③脳MRI検査、④バイオマーカー検査(アミロイドPET検査、または脳脊髄液検査)